

J-7

防災施設としての機能を持つ大仏殿の設計 観光地における災害対策施設の計画

Design of the Great Buddha Hall to function as a disaster prevention facility Planning for disaster preparedness facilities in tourist areas

佐藤信治¹, ○尾沢圭太²
Shinji Sato¹, *Keita Ozawa²

Japan is a country with many tourism resources and is visited by many tourists, both domestic and foreign. At the same time, Japan is one of the most disaster-prone countries in the world. Japan is a country that is constantly hit by numerous disasters, and tourism is no exception to this rule. Since Japan has experienced many disasters and is certain to experience more in the future, there is a high level of awareness of disaster prevention and recovery, and many efforts are being made. However, these efforts are made within the sphere of everyday life, such as work, school, and home, and it is more difficult for such awareness and efforts to work in "tourism," which is away from everyday life, than in normal times.

This proposal is to plan and design disaster countermeasure facilities in sightseeing areas and to establish compatibility between disaster countermeasures and sightseeing, based on the relationship between tourists and disasters, which are becoming ever more frequent.

1. はじめに

我が国日本は観光資源が多く存在し、内外問わず観光客が多く訪れる国である。現在はコロナ禍ということもあり、以前より観光客数は減少しているが、依然、観光業に力を入れた取り組みを行っており、ポストコロナ、ひいては日本の未来に向け観光先進国を目指している。

また、それと同時に、世界有数の災害大国でもある。数多くの災害が常襲する日本において観光地も例にもれず、その対象である。日本は幾度の災害を経験、また、これから経験することが確約されているも同然であることから、防災や復興に対する意識が高く、多くの取り組みが行われている。しかし、それらは職場や学校、家といった普段の生活圏内においてであり、日常から離れた「観光」においては、それらの意識や取り組みが通常時よりも働きづらい。

本提案は、絶えず訪れる観光客と常襲化する災害の関わり方から、観光地における災害対策施設を計画設計し、災害対策と観光の両立を構築するものである。

2. 計画背景

2.1. 鎌倉市における観光の規模

日本の観光地の一つである鎌倉、ここは観光地であ

りながら地震や津波といった災害の危険性と常に隣り合わせである。1月には1日平均12万人(Table 1.)もの観光客が訪れる場所でもあり、この時期と災害が重なった場合の人的被害は計り知れない。また、コロナ禍前の令和元年における観光消費額は711億円であり、令和7年時での目標額が1036億円である。これだけの額が観光産業によって落とされ、また目標としていことから、災害によって観光資源が損なわれ、観光産業が機能しないとなると観光を売りとしている街全体への痛手となる。

Table 1. Number of Tourists in Kamakura by Month [1]

◆月別観光客数(平成23年入込観光客調査)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
月別人数	5,988,737	642,324	426,358	830,638	1,515,808	2,179,703	
一日平均	122,098	22,940	13,753	27,688	48,897	72,657	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	907,738	1,562,030	895,180	1,082,721	1,337,578	742,053	18,110,868
	29,282	50,388	29,839	34,926	44,586	23,937	

(1月の一日平均は、正月3が日の人出257万人を除いて算出)

2.2. 観光客の防災意識

観光客は普段の日常では得られない体験やレジャー、癒しを求めて観光に訪れる。そのため、その観光地地域の災害時の取り組みや避難計画などを知らずにその地域にいるのである。観光地によっては、観光スポットで防災マップを配布したり、避難案内看板を設置するなどの取り組みをしているが、観光中にそれらを意識し

1 : 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2 : 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

続けるのは難しく、最終的には災害発生時の観光客自身の行動に頼っているのが現状である。また、近年のインバウンド政策により訪日外国人観光客が増加しており、その場所の防災計画を知らない観光客の割合は増えると考えられる。

2.3. 再建されない大仏殿

観光地として有名である鎌倉には、名所である高徳院の鎌倉大仏がある。幾たびの災害により大仏殿が倒壊して以降、再建されることはなく露座の大仏として存在し続けている。

3. 基本方針と計画

上記の背景から、観光地における観光客の円滑な避難、及び防災を行うために、言語や案内に頼らず、かつ災害時に逃げる場所としてわかりやすい災害避難施設を計画する。そのため、災害時のみ役割をもつ施設ではなく、日常から観光客が利用できるシンボリックを有した施設を設計し、観光の中で防災や避難を刷り込ませる必要がある。具体的に、(1)日常時の観光客と地域住民の交流の場 (2)災害時の避難場所 (3)被災時の滞在場所 (4)災害後の復興拠点の役割を持たせることを目的とする。

3.1. 計画地

神奈川県鎌倉市長谷。観光スポットとして有名な鎌倉大仏のある高徳院を計画地とする。観光地としての知名度と大仏というシンボリックを有しており、鎌倉に訪れる観光客なら全員が知っている場所であるといえる。



Figure 1. Map around Kotoku-in Temple [2]

4. 建築計画

4.1. 導入機能

①宿泊施設 ②観光施設 ③地域住民と観光客の交流施設 ④生活機能を有する避難施設 ⑤災害備蓄倉庫 ⑥復興拠点 ⑦大仏殿

4.2. 全体計画



Figure 2. Zoning diagram [3]

大仏殿の再建を主軸としたゾーニングを行い、大仏を囲むように機能を導入していく。今まで見ることでできなかった角度から大仏を見ることができ、導入施設と併せて観光客の滞在時間を延ばす。災害時には大仏が人々を救うシンボルとして機能する。

5. 参考文献

- [1] 鎌倉市の観光事情：<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankou/documents/tsunamiguide.pdf>
- [2] Google マップ：<https://www.google.co.jp/maps/>
- [3] 地理院地図：<https://maps.gsi.go.jp/>
- [4] 鎌倉市の観光事情 <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankou/documents/jissekisuuchi.pdf>
- [5] 鎌倉大仏殿高徳院：<https://www.kotoku-in.jp/about.html>